

## 身近な草木花 11 月

**ツワブキ** キク科 花期；10～12月 場所；北進入路脇・防火水槽付近、10号棟西側など

ツワブキの名は、葉に光沢があるフキの意味の艶路がなまったもの。

海岸の岩の上や崖などに生える耐寒性宿根草。厚手の葉は海岸の厳しい環境にも耐えうるように進化してきたことを物語る。元々は日当たりを好む植物だが半日陰や陰地でもよく育ち、かえって葉は美しく茂る。日本人好みの植物で、寺庭や茶庭によく見かける。



ツワブキの花は、一見、周囲には花弁がならび、中心は雄しべの塊のように見えるが、実は周囲の花びらがそれぞれ一つの舌状花、中のつぶつぶもそれぞれが筒状花。多くの花が集まったもの。これがキク科の花の特徴。

(写真は 2013 11/1 北・防火水槽脇 花弁はどこか不揃い。花は周囲に舌状花、中に筒状花の構造)

**ヤツデ** (別名：テングノハウチワ) ウコギ科 花期；11～12月 場所；法面随所

日本の山地に自生する日本原産の常緑低木。日陰にも強く、公害にも強いので、公園の植え込みにも使われる。当団地では法面にはもちろん、居住区の植え込みの中にも見られる。



ヤツデの花は、小さな一つ一つが花。白い花弁(花びら)が開いています (2013 11/1、北法面)



手形のように大きく切れ込んだ葉が名の由来。漢字で「八手」と書くが、実際は 7、9、11 の奇数に裂けている。「八」は日本古来の命名法で「多い」の意味。

**ナンテン** メギ科、常緑低木 花期；5~6 月 果実；10~11 月 場所；居住区、法面の随所  
名が「難を転じる」に通じる縁起木として信じられ、古くから庭木として根強い人気がある。

正月の床の間に飾られたり、盗難除けや魔除け、火災除けとして戸口や玄関先に、魔除けとして手水鉢の傍らに植えられてきた。出産祝いの赤飯の上に乗せて、子供の健やかな成長を願う風習もある。

秋から冬にかけて熟す赤い実は美しいが、鳥の好物。 （「大人の園芸」から）



写真は左右とも 2015 11/7、6 号棟前

この赤い実も年が明ける頃には、小鳥に食べられてほとんど残っていなかった。

〔参考書〕

『山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花 離弁花 1』山と溪谷社

『大人の園芸 庭木・花木・果樹』 濱野周泰監修 小学館

『花の風物誌』 釜江正巳著 八坂書房



## 【 様々な紅葉 】

私たちの団地は木々の緑に囲まれています。グリーンメゾン（緑の館）なる故とひそかな誇りを感じて生活しています。これらの木々の緑も秋が深まるとともに、ある木は鮮やかな黄色にかがやき、ある木は燃えるような赤色にかわり、いつか枯葉として散っていきます。今回は、それらの木々の黄葉・紅葉の様子を見ていきます。

### 黄色～茶色系

植物の葉にはもともと黄色の色素（カロチノイド）と緑色の色素（クロロフィル；葉緑素）が含まれています。

植物の葉は、日々太陽の光と水と二酸化炭素から炭水化物（でんぷん）を作り出し、酸素を排出しています。この働き（光合成）をしているのがクロロフィル（葉緑素）です。クロロフィルは太陽の光の赤と青の光を吸収して緑の光を反射します。それでクロロフィルが働いている葉は緑色に見えます。

秋になって光が弱く、気温も下がるとクロロフィルの働きが弱くなり、量も減ります。するとそれまでクロロフィルに圧倒されていたカロチノイドが量的に優勢となり、葉が黄色く見えるようになります。これが黄色の紅葉です。



アカシデ



イチョウ



エゴノキ



エノキ

Datab ; アカシデ 2016 11/8 中央広場、イチョウ 2016 11/12 3号棟南イチョウ並木、  
エゴノキ 2013 11/14 中央広場、エノキ 2016 11/17 2号棟南









Data ; キリ 2016 11/17 東法面、 クヌギの落葉 2016 11/7 北法面、  
ケヤキ 2016 11/17 北法面、 コナラ 2016 11/20 北法面、  
コブシ 2013 11/16 北法面、 トチノキ 2014 11/2 北広場、  
ナツツバキ 2014 11/4 10 号棟西側、 サンショウ 2013 11/24 北法面、  
ハギ 2016 11/20 北駐車場と進入路の間、 ヤマブキ 2016 11/17 東法面

### 赤色系

葉が散る前に、木に離層というコルク質の組織が作られ、葉と枝の物質の行き来が分断されます。これによってクロロフィル（葉緑素）は再生産されなくなる上に分解されて数が減り、代わりに葉から移動できなくなった炭水化物は葉の中でアントシアニン（赤い色素）に姿を変える。これが赤色の紅葉です。



Data ; カマツカ 2014 11/23 中央広場、 ハナミズキ 2014 11/19 4 号棟東側  
モミジ 2016 11/17 中央広場、 ドウダンツツジ 2014 11/19 6 号棟北側、  
ニシキギ 2014 11/23 7 号棟東側、 ヒイラギナンテン 2014 11/19 5 号棟北側、  
ブルーベリー 2015 11/27 東法面、 ツタ 2016 11/17 北法面、





モミジ



ドウダンツツジ



ニシキギ



ヒイラギナンテン



ブルーベリー



ツタ



## 種々の紅葉



### Data

カキノキ 2014 10/30 中央広場、渋い色合いが魅力

カシワバアジサイ 2013 12/4 東法面、

重厚な発色が何とも言えない

ヒュウガミズキ 2014 11/19 5号棟北側

微妙なグラデーションがすばらしい

ビョウヤナギ 2013 11/11 北駐車場と進入路の間、

所々赤く染まった紅葉が可愛い

ユキヤナギ 2016 11/8 管理事務所前、

小さな葉の可愛い紅葉

## 日当たりや木による違い

アントシアニンの生成には日光の存在が不可欠で、同じ木でも日がよく当たる所は赤く、日陰では黄色くなったりします。同じ日当たりでも、1本は黄色、1本は赤色になることもあり、その理由は解明されていません。





ウメ (左) 2014 11/23 東法面のウメ (右) 2013 11/14 法面北東部のウメ



オオシマザクラ 2013 11/17 (左) 北駐車場と進入路の間の桜 (右) 北駐車場入り口の桜



管理事務所前広場のケヤキ 2013 11/14 同日の撮影で、日当たりも同じようだが、木により紅葉の度合いが異なっている。





中央広場のモミジ

(左) 2016 11/8  
右側だけが紅葉している

(右) 2016 11/17  
全体が紅葉していた

たぶん左側は 6 号棟の陰  
になるためと思われます



### 特殊な例

これはまた別の現象ですが、こんな発色も見られました。



これは 8 号棟北側階段脇のヤマザクラです。

左は黄葉(2016 11/20)、右は開花(2014 4/7)の写真です。(下も同じ)

ヤマザクラは春に赤みがかった葉と花を同時につけます。が、なぜ秋の紅葉は“黄色”なのでしょう。紅葉の赤色も、若葉の赤色もともにアントシアニンが関係しているとのことで、日差しが関係しているのではないかと思います。北法面はほぼ北に向いており、春から夏は太陽が東より北寄りに昇り、このため朝日が差します。秋から冬は太陽の高度が低くな





り、東より南寄りに太陽が昇り、このため北法面にはほとんど日が差しません。こんなことが原因ではないかと推測しています。

### 団地の紅葉を写真に撮るには

団地の紅葉は、野や山の自然の中とは違い、いつでも日差しがあるとは限りません。建物の陰になっている紅葉を写真に撮っても、フラットでにごった写真になってしまいます。団地の紅葉を写真に撮るにはちょっとした工夫が必要です。

#### 光のあたる時間を確認する

団地の低木などは建物の陰になっている場合が多いので、何時頃建物の間から日が差ししてくるか日頃から注意しておく。例えば、12月上旬に紅葉する、北進入路脇（8号棟裏の階段を下りた向かい）のモミジは、11時頃をはさんで、わずか30分だけ日が差します。それがまたすばらしいドラマを生みます。

#### 日陰の低木の撮影にはストロボを活用する

先の例では、ヒイラギナンテンやビヨウヤナギは日陰で撮った写真です。（これは悪い例です）ドウダンツツジ、柿の葉、ユキヤナギはストロボを使っています。鮮やかに発色しています。

#### 日の光を透かして見る

紅葉でも日差しの中で見ればくすんで何の美しさも感じられない場合があります。そんな時は太陽の陽を透かして見れば、色鮮やかな紅葉を見ることができます。

イチヨウ、エゴノキ、コブシ、ハナミズキ、モミジ、ブルーベリー、ウメ(黄葉)などは太陽の陽を透かして見たものです。そして、 に記しました北進入路脇のモミジもそうです。

紅葉・黄葉の説明は『紅葉のきれいな樹木図鑑』家の光協会発行、からの引用です。

〔写真・文 石川〕